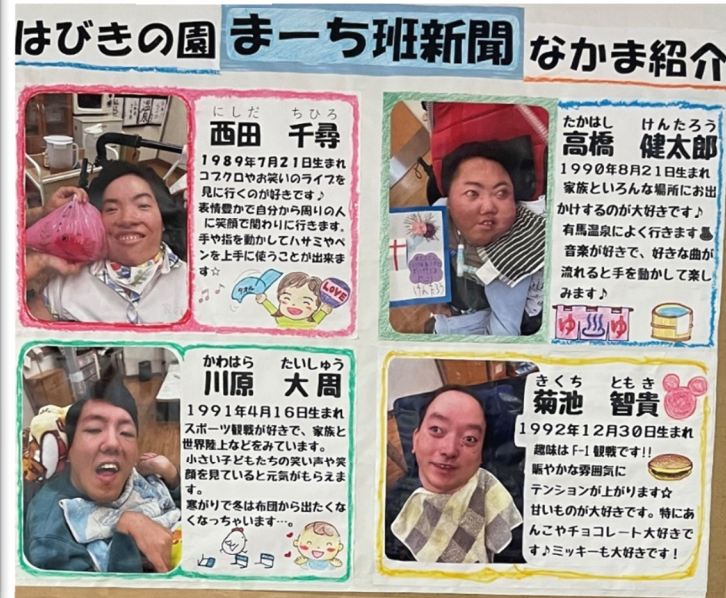


ふたかみ NEWS プチトマト

はびきの園 まーち班

室内でも四季を感じてもらうために壁面製作を行っています。壁面で作った作品を基に活動も考えています。また、今年からまーち班新聞を作りました。まーち班の活動をアピールすることが目的です。はびきの園玄関に飾っているのでぜひ見てください♪



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者: 石本悦二 編集責任者: 関口奈緒美



ギフトセット いかがですか？



製菓班では、プレゼントやお供えなど用途に合わせた“ギフトセット”を数々ご用意しています♪



クッキーにケーキ、ご予算に合わせてお好きな組み合わせでご用意承ります。是非一度ご検討してみてください(^^) (辰己)

お問い合わせ先 はびきの園製菓班: 072-957-4041

このまちで暮らしたい
「障害者生活耕房」(グループホーム)
—建設募金のお願い—
2022年6月openしました!!
新しい暮らしを支える拠点として…
建設募金へのご協力よろしくお願い致します。

◆郵便振替◆

【口座番号】00950-3-225417

【加入者名】社会福祉法人ふたかみ福祉会

◆銀行からゆうちょ振込◆

【金融機関コード】9900 【店番】099 【預金種目】当座

【店名】〇九九店(ゼロキユウキユウ店) 【口座番号】0225417

■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

【2023年2月】

- ・山本富子
- ・山口銅一
- ・森恒子

■寄附・・・大阪友の会様

■寄贈・・・倉木暁子様

■ボランティア・・・垣内秀夫様 垣内享太様

■アルミ缶回収(2月分)・・・790 kg

- ・・・・・・以上4口
- ・・・・・・以上2口
- ・・・・・・以上1口

ありがとうございました

◆2022年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人では新しくグループホーム2ヶ所をたちあげました

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費: 1口3,000円 団体会費: 1口10,000円】 郵便振替口座: 00940-5-325894



カフェハピバール

4月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 15日(土)
29日(土)

皆さんのお越しをお待ちしております♪

まちまるしえ

4月2日(日) 10:00~15:00

峰塚公園芝生広場(羽曳野市軽里2丁目)

★Instagram★

⇒ cafe-hapibar.com

お問い合わせ先

072-958-3232

新年度（2023年度）にむけて 「平和に暮らせる社会を」

新型コロナウイルスはまだ過去のものになっていないと思いますが、いろんな経済復興を目指した活動が優先されています。もちろんそういった動きも必要なことですが、コロナ禍の中で起こった医療崩壊や特に大阪では死者数が全国の中でもかなり多かった事実の検証、反省を行ってほしいです。一方世界に目を向けるとウクライナにロシアが武力侵攻して1年が過ぎました。いまだ終結の目途も立っていません。欧米の自由主義国からはウクライナへ武器が提供され代理戦争の様相をみせています。日本国内でもそれに呼応するかの如く自衛隊への軍事力増強が叫ばれています。「新しい戦前」という言葉も話題になりました。防衛費の増強の裏には福祉予算の抑制がなされるのではないかと心配されます。これから益々きょうされんやその他の関係団体とともに声を上げていかなければなりません。

障害者福祉関係では旧優生保護法裁判で、各地裁や高裁で違

憲、除斥期間の不採用の判決が出ています。早く確定するように願っています。ちょっと明るい話題でした。

私たちの法人に目を向けると新しいGH「はばたきアネックス」がオープンしました。また「かがやくいのちプラン」中期計画の真ん中の年です。昨年度には職員研修で法人理念「かがやく命を大切に作る社会をつくります」について改めてその意義を確認しました。そして今年度は理念を共有し、実践（障がいがあっても一人の主人公として、人間としてたくましく豊かな人生と一緒に築いていく）に生かしてほしいと願っています。平和な暮らしができる社会であればこそ私たちの願い、描く活動ができることがコロナ禍、ウクライナの状況の中で浮き彫りになりました。これからも関係諸団体と共に理念を大切に平和な社会を実現しましょう。

理事長 八木昭二

障害者虐待防止研修を受けて

2月21日に羽曳野市役所で、羽曳野市作業所・施設連絡協議会（はされん）による障害者虐待防止研修が行われました。ふたかみ福祉会だけではなく、羽曳野市内の複数の事業所の職員が参加しました。

障害者虐待とは何か？というところから始まり、虐待の種類など基本的なことや、全国的な虐待件数のデータについて聞きました。実際に虐待があった事業所の中でも件数が多いのは共同生活援助（グループホーム）であると知り、グループホームで働く身としては身の引き締まる思いでした。

研修のメインであるグループワークでは、事例として入職して1年未満の職員2人が事業所で利用者に暴言を言う、高圧的な対応、押し倒すなどの行為をしていた事について話し合いました。虐待を受けた利用者の気持ち、虐待をした職員の気持ち、周りにいた他の職員の気持ちなどを考えていくと、問題は「虐待をした」という行為だけではなく、虐待に至るまでの過

程にも視野を広げることが必要なのだとわかります。考えられる原因として、障害がある人に対する対応が適切でなかったこと、それを相談できる人がいなかったこと、そもそも適切な指導を行う人がいなかったことなどが挙げられました。そういった知識・技術不足、職場環境、指導体制など様々な要因が積み重なった結果が虐待となっていました。

虐待防止に向けて講師の方が「一人で支援するのではなく、チームで支える」と仰っていたのが印象に残っています。私自身、何かあると一人で悩みがちになってしまっているのですが、疑問や不安なことは周りに共有することが大事だと改めて感じました。自分がされて嫌なことは人にしない、当たり前のことです。が忘れずに、これからの支援を行っていくと思います。

（経澤）



プロジェクト仲間交流会

2月17日、きょうされん河内ブロックのなかま交流会



が、ZOOMにて今年も開催されました。違う地域の日中作業所や入所施設など、様々な事業所のなかまが参加する交流会に、はびきの園からは自治会メンバーが代表として参加しました。自己紹介や事業所紹介、OXクイズなど楽しい内容が盛りだくさんの交流会でした。自己紹介では、事前に自治会メンバーが各々に考えた自分のアピールポイントや頑張っている仕事、好きなものなどを緊張しながらではありましたが、元氣よく発表することが出来ました！OXクイズでは「どっちやろく？」「〇〇さん、どれやと思う？」

とみんなで一緒に悩んだり、正解を喜び合ったりと、みんなで盛り上がりました。次の交流会はまた直接会って、できるようなって欲しいな。と願っています。

（寺村）



きょうされん実践研修

2月にきょうされん大阪支部主催の実践研究交流会に参加してきました。分科会では、「作業所実践から見えてくる発達保障」をテーマに話を聞いたので印象に残った事を報告します。

発達とは、「立つ」「歩く」など「縦への発達」と「豊かさ」といった「横への発達」が存在します。人は縦への発達に目が行きがちですが、日常の日々の積み重ねによって成長する横への発達も大切です。2、3歳の発達では、二次元形成期のため目の前にないものを想像することが難しく話にあったのは「お給料」についてです。二次元形成期では、「仕事をしないとお給

料がでない」ということに対し、「なんで？どうして？」という気持ちになります。また、「給料」と「ボーナス」の違いを理解することが難しいです。しかし、理解が難しいからといって説明しないのではなく、なかまも社会で働く一員として、知る権利があります。また、働く意義を理解できるように障害にあわせてわかりやすく説明することへの大切さを知りました。

日々の作業で、「やらされている感覚」というものは人間不信につながる可能性があります。なかま達が、興味のある物やどういったことをしたいのかを理解し考え、なかまが楽しく自主的に取り組んでもらえれば嬉しくなります。それにより、「豊かさ」の幅もさらに広がっていったら良いと思います。（阪本）

◇昔から 不当な扱いを受けてる

午前中に、きょうされん専務理事・藤井克徳氏の基調講演があり、「障害のある人の歴史と現在を知り未来へつなげる実践」というテーマで、障害分野で改めて今起きている事や、過去の未決着問題の話をされました。

いくつもの人権侵害があることや見て見ぬふりの行政の話、過去の障害者差別への未決着問題、優生保護法について、強制入院制度の問題などの話がありました。旧優生保護法の条文には「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」の文言が記載されており、障害者はまた次も障害のある子どもが生まれると決めつけ、国が避妊手術を強制的に押し進めました。きょうされんの請願署名でも旧優生保護法の事は請願項目の中でも一番始めにあげられており、優先度の高い問題だと思っています。署名を通じて今起こっている事実を伝えていかなければいけないと思いました。

障害のある人の生活や権利は昔から不当な扱いを受けており「そのうち変わるだろう」という考えではいけないと思いました。研修で学んだことを一人でも多くの人に知ってもらえるように日々の支援や署名活動に役立てていきたいです。（松田）

